山　梨　県

Ⅰ，学校の概要

御坂町立　御坂西小学校									
	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	３	３	３	４	３	３	１	２０	２５
児童数	１１２	１１３	１０７	１２３	１１４	１１７	５	６９１	

Ⅱ，実践研究の概要

１，主題

豊かな心と確かな学力をもつ子どもの育成
～一人ひとりを大切にするコミュニケーション活動を通して～
※コミュニケーション活動
①自分の考えをもつ②相手に伝える③相手の考えを聞く④自分の考えを広げたり深めたりする⑤考えを表現する⑥自分を振り返ったり，相手の良さを認めたりする　　の６段階の活動

２，内容と方法

（１）実施学年・教科

全学年　全教科・道徳
昨年度の研究成果から，コミュニケーション活動を授業にとり入れることが「わかる授業」に有効であることが検証されたので，国語・算数の２教科から全教科に窓口を広げた。また，確かな学力とともに，豊かな心の育成にも力を入れたいと考え，道徳も研究の枠の中にとり入れた。

（２）年次計画

平成14年度

○テーマ
豊かな心と確かな学力をもつ子どもの育成
～一人ひとりを大切にするコミュニケーション活動を通して～
○仮説
国語科・算数科の授業において，一人ひとりを大切にするコミュニケーション活動を仕組むことにより，豊かな心と確かな学力をもつ子どもが育つであろう。
＜本年度の具体的仮説＞
国語科・算数科の授業において，学習過程にコミュニケーション活動を意図的・効果的に取り入れることにより，「自分の思いや考えを大切にする子ども」「相手を認め，相手とより良く関わっていこうとする子ども」「課題解決力を身につけた子ども」が育つであろう。
○研究内容・方法
・学習過程の中へのコミュニケーション活動の生かし方の研究
・検証授業の実践
・児童の実態調査
・指導体制の工夫

平成15年度

○テーマ
豊かな心と確かな学力をもつ子どもの育成
～一人ひとりを大切にするコミュニケーション活動を通して～
○仮説
各教科の授業において，一人一人を大切にするコミュニケーション活動を仕組むことにより，豊かな心と確かな学力をもつ子どもが育つであろう。
※昨年度は，具体的仮説をたて重点的に研究する内容を明確にしたのだが，コミュニケーション活動を有効に仕組んでいくためには，いくつかの要素が関係するので，あえて重点的な内容を取り出さずに研究を進めていく方が効果的であるという考えから，今年度は具体的仮説をたてなかった。

○研究内容・方法
（1）コミュニケーション活動の工夫
①ねらいに即し，意欲的に取り組める学習課題の設定
②座席表を利用し，児童一人一人の実態(知識，経験，意欲，理解の状況，思考の変容など）を適切に把握
③実態把握を生かしたコミュニケーション活動の計画立て（子どもたちどうしの関わらせ方，話し合いの支援など）
④学習意欲につながる評価，指導に生かせる評価
（2）個に応じた指導のための指導体制・指導方法の工夫
①児童の実態把握をし，指導に生かす(学力テスト，レディネステスト，授業の中での教師の見取り，自己評価，相互評価などから）
②指導体制を生かす(少人数グループによる学習，Ｔ・Ｔによる学習，教科担任制，個別指導）
（3）個に応じた指導のための教材の開発

平成16年度

○テーマ
豊かな心と確かな学力をもつ子どもの育成
～一人ひとりを大切にするコミュニケーション活動を通して～
○仮説
各教科の授業において，一人ひとりを大切にするコミュニケーション活動を仕組むことにより，豊かな心と確かな学力をもつ子どもが育つであろう。

○研究内容・方法
・自己評価，相互評価，教師による評価の研究
・検証授業
・児童の実態調査
・理解の程度に応じた学習のための指導体制の工夫，教材の開発

（３）研究推進体制

校内研究会　（メンバー　　本校教職員全員） ・部会は各学年部会 ・必要に応じて研究小委員会

Ⅲ平成１５年度の成果および課題

１，研究の成果

今年度も授業の中にコミュニケーション活動を取り入れ，子どもたちにとって「わかる授業・楽しい授業」になるように取り組んできた。具体的な手立てとしては研究内容に示したように，一つには学習課題の設定を工夫すること，二つめとして一人一人の実態（事前の実態把握だけでなく，授業中においても）を適切に把握すること，三つめとして把握した子どもたちの状況を生かしてコミュニケーション活動を仕組むこと，四つめとして学習カードや振り返りカードを活用して評価と指導を一体化させること，に取り組んできた。

その結果，まず昨年度の成果である，

○子どもたちは授業の中で課題を受け止め，自分なりに考え，自分なりの意見を持ち，発言しようとする力を身につけてきた。

○子どもたちは自分の考えをもった上で相手の考えを聞くので，より主体的に相手と関われるようになった。

○子どもたちどうしの関わりが広がったことで，励まし合ったり，教え合ったりすることが増え，子どもたちは仲間と学び合う楽しさを感じることができた。

○仲間と一緒に課題を解決することで「わかる」「できる」ことが多くなり，学習意欲につながった。

について今年度も同様の成果があった。

さらに今年度は，コミュニケーション活動の中でもっと個を生かすという取り組みを通して，以下のような成果をあげることができた。

○単元に入る前のレディネステストなどを行なうことにより，子どもたちの事前の状況がわかり，単元の目標や全体の指導計画に生かすことができた。

○子どもたち一人一人の実態を把握し座席表に書き込んでいくことで，より個に目が向けられ，一人一人の子どもの学習の理解状況や思考の変容などを見取ることができた。

○見取った子どもたちの実態を，コミュニケーション活動をどのように仕組むと課題解決に有効なのか，という計画立てに生かすことができた。

○事前の実態把握だけでなく，授業の中においても子どもたちの理解の状況や思考の変容などを座席表に書き込んでいくことにより，その後の授業の流れや次時の授業にいかすことができた。

○上記のような成果を通して，多くの子どもたちが自分の考えをもって発言したり，友だちの考えを聞いて関わった発言をしたりしながら，みんなで課題解決に向かっていくことができた。

検証授業における教師評価の結果

１・・・そう思う　　２・・・だいたいそう思う　　３・・・あまり思わない　　４・・・思わない　のうち　１または２に○をつけた人の割合

		１年 国語	２年 算数	３年 国語	５年 社会	６年 社会
・子どもたちは意欲的に取り組んだか	１ ２	９３％ ７％	６２％ ３１％	７５％ ２５％	６４％ ３２％	８６％ ０％
・座席表による実態把握がコミ活動に生かされたか	１ ２	８６％ １４％	４１％ ４４％	４２％ ５０％	４３％ ４０％	２９％ ４３％
・コミ活動が課題解決の手立てとなったか	１ ２	３６％ ６４％	２６％ ４７％	５０％ ４２％	４０％ ３６％	４３％ ２９％

今年度の取り組みの課題として，コミュニケーション活動を仕組むとき，子どもたちに何を考えさせるのか，何について話し合い活動をさせるのか，といったことが明確になっていなかったり，本時の目標と，学習課題，話し合いの内容などがずれてしまったりして，本時の中で子どもたちが何を学習したのかわからなくなってしまった，ただコミュニケーション活動を取り入れただけで終わってしまった，という点が挙げられる。

単元の目標をもとに単元全体を見通した指導計画を作成するとともに，どこでどんなことについて子どもたちの状況を見取っていくのか，という指導と評価の計画をきちんと立てていくことが来年度への課題となる。本時ではこのことを目標にし，そのためにこういったコミュニケーション活動を仕組み，その中で子どもたちのこういう点についての状況を見取り，次の指導に生かす，といった取り組みが必要になってくると考える。

Ⅳ，学力把握のための学校の取り組みについて

１，教研式学力検査の実施

・年度初め（６月）と年度の終わり(２月）に国語と算数の２教科について行なっている。

・検査の結果は，担任が児童の学習内容の定着の様子を理解し，その後の指導に生かすようにしている。また，家庭にも知らせ，家庭と連携をとりながら指導できるようにしている。

Ⅴ，フロンティアスクールとしての成果の普及について

１，東八代郡・東山梨郡内の小中学校に対して本校の授業研究会の案内を出し，多くの先生方の参加を呼びかけた。

Ｈ１５．１０．２２	１年	国語
１０．２７	５年	社会
１１．１０	２年	算数
１２．　１	６年	社会
Ｈ１６．　１．２６	３年	国語

２，地域課題研究会において御坂中，御坂東小の先生方に授業を公開した。

Ｈ１６．　１．２１　　１～６年全クラス

【新規校・継続校】　　１４年度からの継続校

【学校規模】　　１９～２４学級

【指導体制】　　Ｔ・Ｔによる指導　　一部教科担任制

【研究教科】　　国語　社会　算数　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　　有